



ディーラーメッセージ

スズキアリーナ札幌北

カーライフアドバイザー

榛澤 風香さん

ワゴンRは燃費もいいですが、キビキビと走ってくれます。それでいて、安全機能も充実して楽しい車です。走り始めると、すぐに気付くと思いますが、エンジン音がとても静かなんです。スタイリングもキリッと引き締まった感じで、男性や女性を問わず、万人受けすると思います。今回はワゴンRの20周年記念車として、「レーダーブレーキサポート」などが標準装備される特別仕様車です。絶対に気に入っていただける一台です。

EBCD付4輪ABSとあわせて、車両の安定走行に貢献する。

■内外装ともに引き立てる
特別装備

フォルムは通常のワゴンR Fxリミテッドよりも、さらに精かんさを増した。左右のフロントフェンダーには20周年記念の専用エンブレムを配した。専用ブラックメッキフロントグリル、専用ブラックメッキヘッドランプ、足元の15インチアルミホイールが健脚をほうふつとさせる。小物収納に優れたフロントアームレストボックス、メッキインサイドドアハンドルが黒を基調とした内装にひときわ輝きを放つ。

インプレッション

■軽を超えた軽の走りを満喫

随分、進化したものだ。軽自動車がりリリースさせるたびに感じる率直な感想だ。ワゴンR 20周年記念車は走る喜びを感じる。スタートボタンを押して、エンジンを始動。アクセルを踏んで車速を上げると、軽い。とても軽いのだ。車重やアクセル・レスポンスだけではなく、静粛性の向上や前述した走行時にオルタネーターがオフになっている軽快さが、モロに伝わってくる。NA車とは思えない動きだしを実感した。ハンドリングやコーナリング性能は、背高ワゴンとしてはまずまず。特に挙動の不安定な部分を大きく感じることはなかった。
時速13 km以下で作動するアイドリングストップ機能も、さらに進化した印象だ。ギク

シヤク感も少なく、いかにもエンジン止めて、またつけましたという「間合い」が極めて短くなった。

表現しにくい「ヒュー（エンジン停止）、キユル（エンジン始動）」というような一連の動作で行うスムーズな感じ。非常に心地よく、全くストレスや違和感を持つことはなかった。走行中にアクセルから足を離すと、約1秒後に「エネチャージ」をしますよ」的なランプが点灯され、蓄電の実感を味わうことができる。減速中だけの充電で最初はちよとした違和感もあったが、1時間もハンドルを握ると実に理にかなっているシステムだと痛感させられた。個人的にはアイドリングストップ時でもエアコンが利く、蓄冷を施した「エコクール」が一番、好きなシステムだ。これは暑さが厳しいこの時期、本当にありがたい。

■背高ワゴンの
パイオニアの使命

初代ワゴンRがリリースされたのが、93年9月。当時の画期的なスタイルは、軽自動車界の革命でもあり、実に衝撃的だった。どうしても限られた大きさとスペースしか取れない軽自動車を上部に拡大することによって、居住空間の確保に努めた。後部座席はドアが左側にしかない車種もあり、小さい子どもがいる家族にも人気を博した。当時の軽自動車は、ワゴンRに象徴されるような存在だった。20年を経て「エネチャージ」に代表される革新的な技術を研ぎ澄ましてきた軽自動車のけん引役として、今後はどんな観点でクルマづくりをしていくのか。スズキの今後の展望を注目していきたい。